

いつか二次元を超えて



新土誠実

積水化学工業(株)高機能プラスチックスカンパニー
開発研究所 先端技術センター第3グループ
[618-0021] 大阪府三島郡島本町百山2-1
副主任, 博士(工学).
専門はコンポジット材料, 熱硬化性樹脂, 界面化学.
<https://www.sekisui.co.jp/>

仕事で、論文や特許をトレースしたり、ビジネス書等で自己研鑽したり、しますか？ 見知らぬ誰かの論文や特許を参考にするというのは、よく考えれば見知らぬ誰かの残した二次元情報から影響を受けているわけで、とても面白いことです。「文は人なり」であるなら、書いたもの、アウトプットの中に見知らぬ筆者が潜んでいて、あなたに影響を及ぼしているのかもしれない。

仕事に文章は切っても切れません。論文も特許も報告書も文章です。所属が大学であれ会社であれどこかに誰かに報告しなくてははいけません、社会人の宿命です。が、私は本当に文章を書くのが苦手で、学生の頃はもとより、就職してからも文章には苦勞しています(大学で私を指導してくださった先生方、就職してから私を指導してくださった上司の皆様、あんなに指導してくださったのに申し訳ございません)。当所では、毎月の進捗報告と、毎期の活動内容をまとめた報告書の提出が必要ですが、何年たってもきちんとした報告が書けている気がしません。年に1回優秀な報告書が表彰されますが、どうしたら表彰されるような報告書が書けるのか、まったく想像が付きません。理路整然とした文章であることが大切なようですが、どういう文書が理路整然とした文章かが結局いま一つ掴めないのです。「アウトプットは人なり」であるのならば、理路整然とした文がかける人は理路整然としていて、文章がとっ散らかっている私は内面もとっ散らかっていることとなります。「文章を書くのが苦手なだけです」と声を大に主張したいところですが、内面が理路整然としているなどとても言うことはできませんので、認めざるを得ません。残念です。

理論的になろうとロジカルシンキングを勉強したこともあります。あらかじめ理論的に定められた枠を用意しておき、そこに書きたいことや話したいことを整理していく……。なるほど、私はこの枠にはめることが苦手なんでしょう、自覚があります。世の中の森羅万象を二次元上に収めるなど無謀なことだと主張したい、科学者としてはあるまじき主張です。だから理路整然とした文章が書けないのでしょうか。諦められたらよい

のですが、社会人である以上できません。生涯の研鑽が必要です。

私事で、文章を書くことはほぼありませんが、アウトプットの影響を感じるがありました。子供はどこからその遺伝子を伝承してきたのか、音楽に興味があるようで、メロディにもなっていない何かを延々口ずさみ、いつの間にか歌が歌えるようになり、ピアノ教室の前で弾いてみたいと叫び、ジャズバーの前で演奏を聞きたいと駄々をこねることを繰り返し、全力で私にアウトプット(主張)してきます(ちなみにジャズバーは喫煙可能のため子供は入ることができず、いつもドアの外でふてくされています)。自分が音楽好きであることを表現し続け、結果音楽教室への入会を勝ち取ります。子供のアウトプット力には本当に脱帽で、彼があまりに音楽が好きなので、彼に影響されて私もベース演奏を始めました。会社に軽音楽部があり、これまで飲み専(注:飲み会のみ参加する人員のこと)として所属していたので、後押しとなりました。初学の私の演奏は、それはひどいものでしたが、上手な方に引っ張ってもらったり、初学者同士で補いあったりしながら一曲演奏できると、何やら楽しいものです。音楽とはこんなに相互に影響しあうものであったとは。演奏者というフィルターを通してアウトプットされることも、確かに誰かに影響を与えるのでしょうか。

音楽とはすごいアウトプットです。音楽という音の集合体を楽譜という二次元情報に落とし込むわけですから。そこには音階というルールがあり、それに則って記載されるからこそ別の誰かがそれを引き出すことができる。なるほど紙面上に論理的に表現されるというのは大切なことだと実感せざるを得ません。

アウトプットが誰かに影響を与えるなら、理路整然でない二次元情報に潜んだ筆者(私)でも、いつか、直接お目にかかれない(もしかしたら遠い未来の)誌面の先のあなたのフィルターを通して、あなたに、そしてその先のどこかの誰かに、時間を超えて小さな影響を及ぼすこともあるかもしれないと期待して、研鑽を続けたいと思います。